

西洋今昔袖鑑
完



特43

228

5

052869-000-1

特43-228

西洋今昔袖鑑

糟川 潤三 / 編

M5

CAA-0173



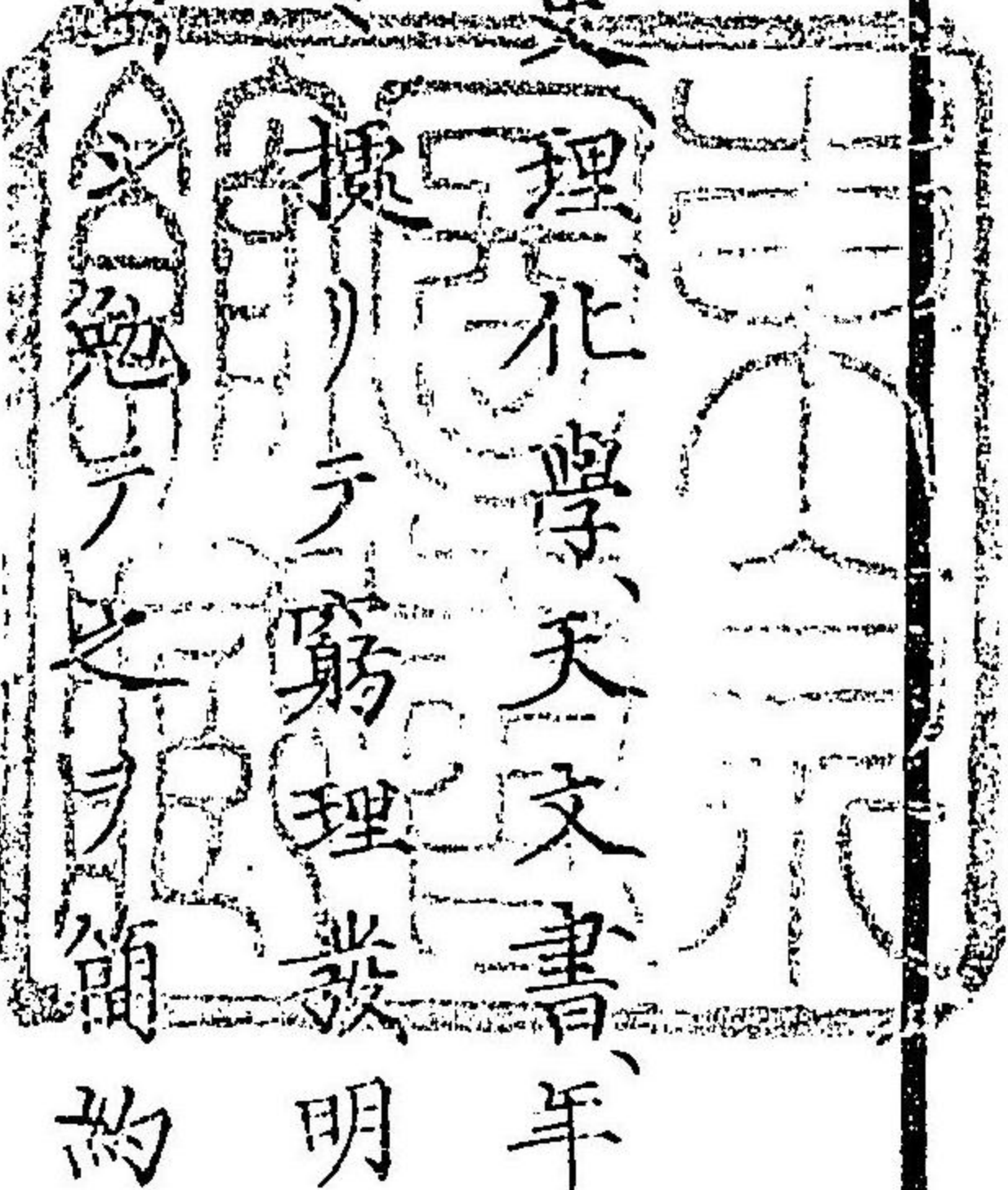
糟川潤三輯

西洋今昔袖鑿

尚志堂藏

例言

一此書ハ英亞開版ノ歴史
 代記及ヒ繙文ノ書等ニ
 事始創造等ノ事ヲ鈔出
 記載シ西洋ノ今昔ヲ一覽スルニ便ナ
 ラシム



一書中專ラ歐羅巴洲ノ事ヲ記スルト雖モ
 亞細亞、亞弗利加、亞米利加等ノ此洲ニ関

西

糟川潤三輯

西
今昔袖鑿

尚志堂藏

例言

此書ハ英亞開版ノ歴史

代記及ヒ翻文ノ書等

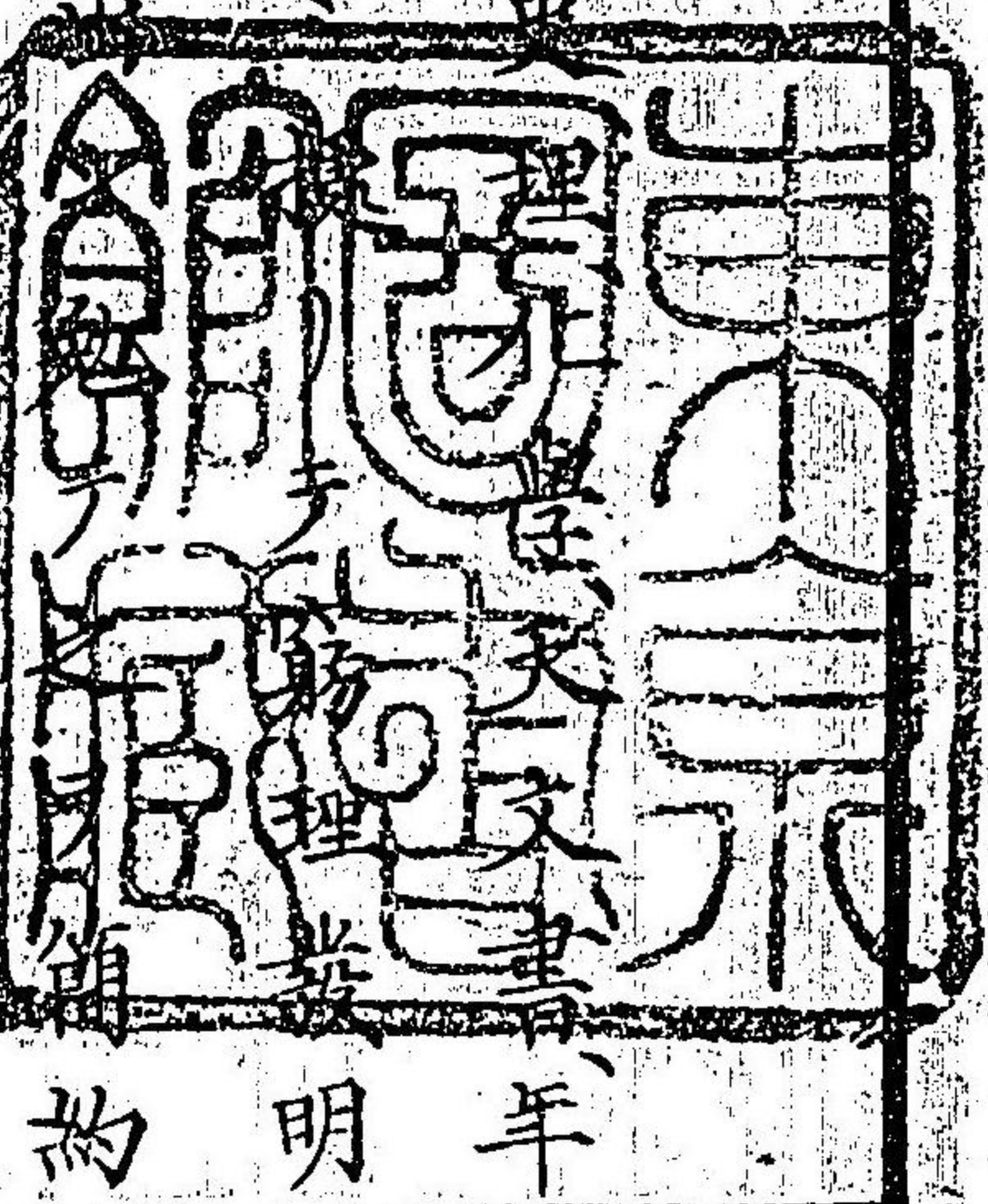
事始創造等ノ事ヲ鈔出

記載シ西洋ノ今昔ヲ一覽スルニ便ナ

ラシム

一書中專ラ歐羅巴洲ノ事ヲ記スルト雖モ

亞細亞、亞弗利加、亞米利加等ノ此洲ニ関



西

係アルノ事ハ又之ヲ載ス

一譯名ノ字音ハ必ス初出ノ處ニ傍譯ヲ下

シ後ハ之ヲ略ス宜ク考フヘシ

一亞細亞、亞弗利加、英吉利、佛蘭西等ノ如キ

親ク衆人ノ耳目ニ觸タル譯字ハ別ニ傍

譯ヲ下サス是又知サルヘカラス

明治五年冬十月

編者 識

目次

天文學之始

尖塔之始

瓦之創造

貿易之始

文字之始

猶太教之始

史記之始

鍊之發明

電氣之發明

磁石之發明

演劇場之始

水稱法之發明

國法學之始

水漏之始

玻璃之始

太陽曆之始

耶穌教之始

磨粉車之始

沙漏之始

水碓之始

羽筆之始

燈籠之始

數字入歐洲始

回教之始

沙糖之始

紙製造之始

醫化視器械學之始

眼鏡之始

火藥之始

大砲之始

兵卒之始

油画之始

出版之始

常備兵之始

亞國之發見

煙草之始

耶穌新教之始

地圖之始

地球一周之始

針之創造

莫大小之始

織襪機之始

練兵之始

公法學之始

地動說之始

搖錘之始

風雨鍼之始

千里鏡之始

對數表之發明

血液運行之發明

寒暑鍼之始

排氣鐘之始

新聞紙之始

引力之發明

牛痘之始

印花機之始
避雷器之始
紡棉機之始
蒸氣機之始
酸素之發明
散兵之始
天王星之創見
水素之發明

輕氣球之始
火輪車之始
禮拜日學院之始
瓦斯燈之始
用樂兵之始
寫真鏡之創製
四小行星之創見
火輪船之始

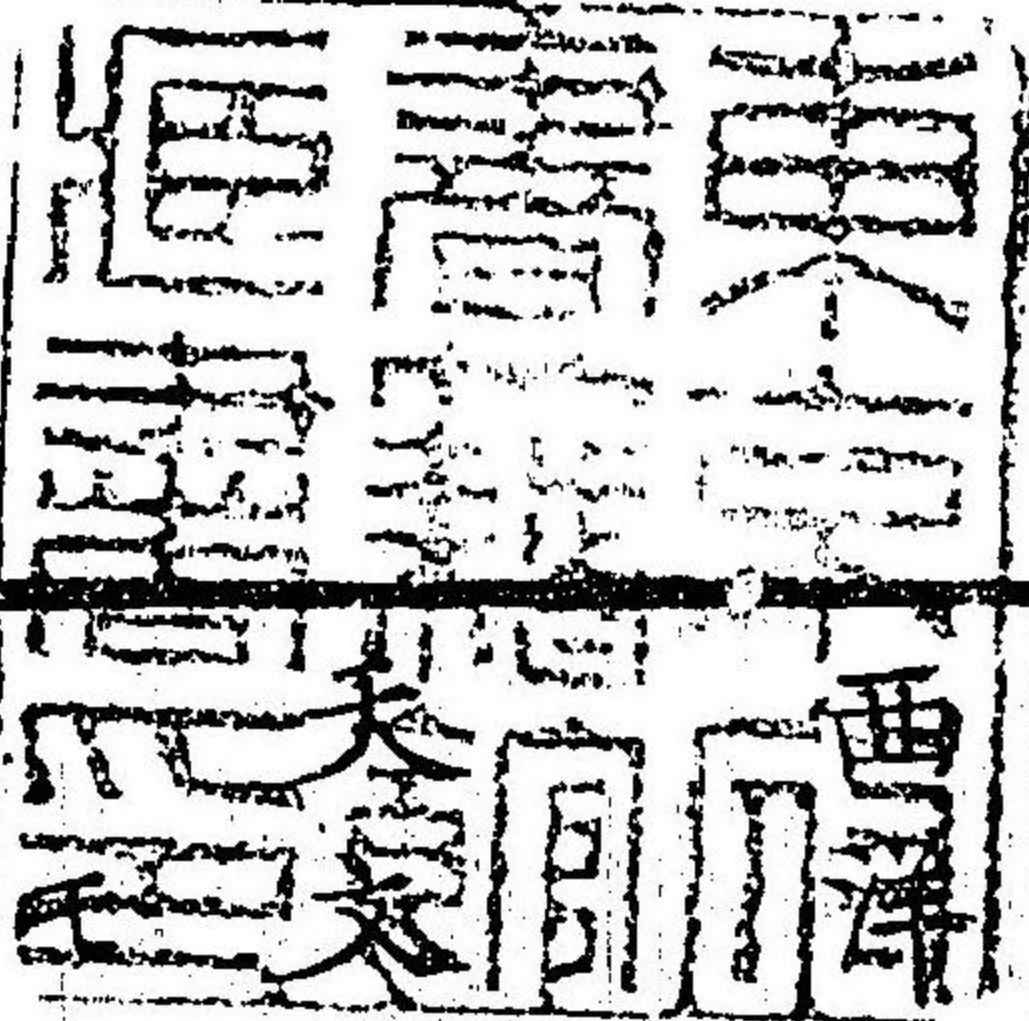
經濟學之始

錢道之始

地道之始

電信機之始

鏡懸槁之始



西洋今昔袖鑿

糟川潤三 輯

學之始 此學ノ起ル、最古ク支那ト

埃及トモ印度トモ或ハ迦勒底トモ云

其說一ナラス然レトモ此諸國實ニ古昔

己ニ日月ノ交食及ヒ行星日ニ合スル等

ノ事ヲ攷察シテ民時ヲ授クルヲ知レリ

支那ニ於テハ周紂ヲ伐ノ前一千九百九

十一年己ニ日月五星ヲ推歩シテ以テ年

表ヲ製セリト云

尖塔之始 紀元前二千九十五年ノ比始テ

埃及ニ於テ石塚ヲ築ク之ヲ尖塔ノ始ト

ス一説ニ何代ノ築造ナルヲ詳ニセサレ

トモ世ノ傳説ニ今ヲ距ル一三千年以前

ニ國王ノ墓碑ニ建テシモノナリト云ヘ

リ其數凡六七十其最大ナルモノニ至リ

テハ高サ約四百八十餘丈アリト云

瓦之創造 製造ノ始甚古クシテ今ヲ距ル

一凡三千八百七十二年前ニアリ近年由

非刺底其ノ河名土耳ノ水濱ニ於テ許大ナ

ル瓦ヲ發見セリ其瓦ヲ見ルニ瀝青ノ如

キモノヲ以テ練リ天日ニ曝乾セル所ノ

瓦ニシテ四千年前代ノ倍伯思繁植ノ地

ノ高塔ノ遺趾ナリト云蓋此時ヲ以テ瓦

ノ創造トス

貿易ボウエキ之始カウエキ たいル國人地中海諸嶋ニ航カウエキ

テ始テ貿易セシハ蓋紀元前一千餘年ニ

在ト云後二三十年ヲ經以色列王鎖羅門カウエキ

海船カウエキヲ作テ諸國ニ通販カウエキス是ヲ貿易始トス

文字之始 今ヲ距ルカウエキト三千六百九十四年

前ニ埃及國ノ莫蠟カウエキト云ヘル人始テ文字

ヲ製スソレヨリ三百二十九年ノ星霜ヲ

經テ紀元前一千四百九十三年ニ至リテ

始テ此文字歐羅巴洲ニ入レリ

猶太教之始 蘇燕教ニ先ツカウエキト最遠クシテ

往時猶太國ニ行ハル其國亡ヒテ後人民

歐羅巴及ヒ亞米利加ニ穢強カウエキシテ今ニ此

教ヲ奉ス蓋此教法ノ始テ起リシハ今ヲ

距ルカウエキト凡三四千年代ニアリト云

鏡之發見 今ヲ距ルカウエキト三千二百七十四年

前ニ格来的ノ以大山蹟出シテ始テ鍊ヲ
現出ス蓋金類中鍊ノ發見ヲ最古シトス
史記之始 今ヲ距ル一凡三千有餘年猶太
國初ノ人摩西ノ遺書ヲ以テ西洋史記ノ
基本トス其說奇怪ノ事多シト雖モ太古
ノ考証スヘキモノ是ヨリ撮ナルハ莫シ
之ヲ史記ノ始トス
電氣之發明 電氣トハ琥珀ノ名ニシテ希

臘國ノ越列機篤倫ト云ヘル語ヨリ出ツ
今ヲ距ル一凡二千五百年許ニ密列的ノ
達勒斯ト云ヘル人始テ琥珀ニ引觸スル
性アルヲ發見シ其後諸體ヲ擦シテ之ヲ
驗スルニ琥珀ノ力最甚シキ力故ニ此名
ヲ擬用セシモノナリト云又北以太利ボ
ログ子府ノ大學者瓦兒華ト云ヘル人偶
電氣ヲ蝦蟇ニ施シテ動物電氣ヲ發明セ

シカ其後パヒア府ノ保^ホ見^ル多ト云ヘル人
多年勉強シテ此試驗ヲ考究シ終ニ此説
ヲ撰^{ヒキ}成^{セキ}シテ一千七百九十六年ニ此電氣
ハ唯二種ノ金類相合スルノ間ニ起ルモ
ノナルヲ發明セリ

磁石^{マゼット}之發明 磁石ハ上古已ニ知ル所ニシ
テ紀元前六百年代ニ希臘國ノ達勒斯ノ
著セル書中ニ之ヲ説キ又必^{ヒッ}巴^ボ如^カ拉^ラ的^ス斯^ス

ト云ヘル人ノ書ニモ録ヲ引ク石ノ説ア
リ今多クノ究理學家ノ説ニ據ルニ小亞
細亞ノ一府ニマグ子シアト云ヘル所ア
リセイピリス山^モ麓^トノ市街ニシテ元此石
ヲ茲ニ看出シタリト思ヒ其名ヲ採テマ
グ子トト称セシ者ナリト云

演劇^{エンゲキ}場^{チヤウ}之始 紀元前五百六十二年^エ孝昭^{セウ}的^テ
斯^ス卑^ヒト云ヘル人希臘ノ雅典^{アセナ}國ニ於テ始

テ技藝ヲ設ケテ好笑劇ヲ興行ス之ヲ
演劇場ノ始トス

水称法シハカリ之發明 希臘國ノアルキメデスト

云ヘル人ハ紀元前二百十二年ノ究理
學者ニシテ曾テ沐浴シテ身ヲ盥中ニ沈
ムル時隨テ溢レ出ル所ノ水ヲ見テ吾體
ノ重サト其溢ル、所ノ水ノ量ト、依テ
頌ニ此理ヲ發明シ自ラ悦ヒ、堪ヘス躍

リ出テ直ニ街衢ニ走入シテ聲ヲ放テ予
今物ノ本重ヲ知ルノ根源ヲ發明セリト
云ヘリ此時ニ方リシラキウスノ女王ヒ
入口新ニ造ラシメタル金冠ノ純雜ヲ知
ルノ術ヲ普ク四方ニ尋球セリ是ニ於テ
アルキメデス即其墓ニ應スルヲ得テ
以テ其冠ノ純粹ナラサルヲ鑒定セリ
之ヲ水称法發明ノ始トス

國法學之始 古昔希臘ノ時代ニハ唯文學
ノ一科ノミニテ餘ノ諸學皆コレニ混セ
シカ後羅馬ノ時代ニ至リテ法學漸ク別
レテ一科ヲ為スニ至レリ之ヲ國法學ノ
始トス
水漏之始 紀元前百五十八年崇神元五以太
利ノ羅馬ニ於テ水漏ヲ製造ス之ヲ水漏
ノ始トス

玻璃之始 紀元前六十年崇神三羅馬ニ於
テ火石ノ類ヲ以テ玻璃ヲ製造ス其後五
百餘年ノ歲月ヲ歷紀元四百九十年元祿
九二至リテ始テ之ヲ窗戶ニ用フ
太陽曆之始 西洋ニテモ古昔ハ我國及ヒ
支那ノ如ク多ク太陰曆ヲ用ヒタリシカ
紀元前四十五年崇神五ニ羅馬帝設沙爾
太陽ノ運行ヲ以テ主トナシテ始テ新曆

ヲ製ス之ヲ太陽曆ノ始トス其後一千八百餘年ヲ經テ教王業列五利ナル者詳ニ天^{ハバ}渡^{ハバ}ヲ測^{ハバ}リ年月ヲ推步シテ其曆法ヲ改正セシハ即一千五百八十三年^天正^一ノ事ナリ

耶魯教之始 開祖耶魯^{キリスト}基督^ハ亞細亞洲^ハ伯^バ塞^{セル}邊^ンノ小村ニ降^ル生^スル此^ハ地^ニ開^キ祖^トウ^ル靈^ハ場^ナト^ナリ^ト五^ハ里^ハ土^ニ民^ハ猶^ト太^ノ教^法ヲ奉^スル力^ハ故^ニ

棄^テ此^ノ兒^ヲ願^ミサ^リシカ遂^ニ基督^ノ人^ト成^リヲ見^テ甚^ク之^ヲ惡^ミ其^ノ救^ヲ世^主ト^稱シテ^ハ讓^性ヲ^獲スルノ^説ヲ^唱フルニ及^テ賤^ク惡^益甚^クシク終^ニ彼^ヲ殺^戮セ^ント^シテ^ハ強^テ之^ヲ懸^令ホ^ンチ^ユス^ノ懸^ニニ^テフ^ボン^チユ^ス之^ヲ死^ニ當^テ、二人ノ賊ト共ニ之ヲ磔^ニ行^フ然^レトモ基督^刑ニ^就クノ後弟子師ノ志ヲ繼^キ其教ヲ四方ニ傳

播シテ遂ニ此宗ヲ私ム之ヲ耶蘇教ノ始トス

磨粉車之始 紀元二百十四年神功英吉利

國ノ阿爾蘭ニ於テ始テ磨粉車ヲ製造ス

沙漏之始 紀元二百四十年神功埃及ノ亞

力山德里亞ニ於テ始テ沙漏ヲ工夫セリ

水碓之始 紀元五百五十五年欽明羅馬帝

如地尼安ノ將百里沙盧ト云ヘル人始テ

水碓ヲ製造ス

羽筆之始 紀元六百三十五年舒明鳥羽ノ

管ヲ以テ始テ羽筆ヲ製造ス

燈籠之始 撒遜ノ王亞弗勒ノ時代ニハ未

夕英國ニ時刻ヲ測ルノ器ナケレハ亞弗

勒國事ノ便ヲ謀リ種々ノ色ヲ以テ燭燭

ニ環ヲ畫キ其燃ルノ多少ヲ看テ以テ時

刻ヲ測レリ然レトモ其燭風ニ遇テアレ

ハ其燃ルノ速ナルヲ以テ之ヲ防カンカ
為ニ始テ燈籠ヲ製造セシハ即チ紀元八百
九十年貞觀ノ事ナリ

數字入_二歐洲_一始 紀元九百九十一年正曆亞
刺伯ヨリ始テ歐羅巴洲ニ數字ヲ傳フ是
ヨリシテ算術ヲ傳フノ法甚便_レ得テ
リ其以前ニ於テハ僅_レ五個ノ羅馬文字ノ
外又數ニ充ツルノ文字ナクシテ大ニ其

法ニ善メリト云

回々_{ハホスダミスム}教之始 六百年代ノ央ニ亞刺伯ニ馬
迦美_{ホメト}ト云ヘル人アリ新宗ヲ世_ト思ニ弘ム
ヘシトノ神託ヲ蒙リタリト説_ハリテ麥_メ加_カ
ノ人民ヲ其徒ニ_ヲ導_レセント説_ハ論_セシカ
初ニハ信_レ仰_セサル而已ナラス却_カテ之ヲ
害セントマテ謀_リシカニ三十年ノ後ニ
至リ許_多ノ宗徒ヲ得テ遂ニ此教ヲ弘ム

之ヲ回々教ノ始トス
 沙糖之始 沙糖ヲ製スルノ草ハ數千年前
 己ニ印度ノ地方ニ於テ生産スバイブル
 名書ノ中ニスウイトカン今ノ沙ノ事ヲ載
 スト云然レトモ此時代ニハ世人未タ沙
 糖ヲ知ラス羅馬ノ人始テ沙糖ノ甚少許
 ヲ以テ之ヲ藥劑イサニ施セリ其後殆ント九
 百年ノ比ニ至リ亞刺伯ノ人此草ヲ携ヘ

テ之ヲセプリユスニ植エ後又之ヲシ、
 リーニ植ウ十字軍ノ兵之ヲ用フルノ法
 ヲ得ホリーランド耶路ノヨリ凱旋ノ時
 始テ之ヲ歐羅巴洲モリスニ齎シタリト云
 紙製造之始 埃及ノ泥羅河ノ旁カタハラニ産スル
 所ノ蘆葦ヲ取テ紙料ヲ製造シ名テ把比
 盧斯リユスト云各國ニ傳フルト最モ早シ後一
 千百年康和ニ至リ西國俱トモニ木綿ヲ以テ

紙ヲ製スルニ途テ名ケテ之ヲ把比爾ト云即把比盧斯ノ轉音ナリ英國ノ綿布紙ヲ創造セシハ其後一千五百八十八年正天六ノ事ニシテ日耳曼以太利等ノ之ヲ製造セシハ英國ニ先ツ丁數年前ノ事ナリト云

醫化、視器械學 一千二百年代ノ央ニ英國阿斯佛ノ僧ニ倍根ト云ヘル者アリ從來

遵用セル理學ヲ以テ未タ足ラストシ始

テ實驗ノ説ヲ唱ヘテ望遠鏡、看書鏡、顯微

鏡ヲ創造シ又天文、算術ノ器械及ヒ醫學

化學ノ概畧ヲ發明ス

眼鏡之始 紀元一千二百六十九年文永以

太利國畢撒ノ僧斯比那ト云ヘル者始テ

眼鏡ヲ製造ス

火藥之發明 阿斯佛ノ倍根始テ火藥ヲ發

明ス然レトモ徒ニ珍奇ノ物ト為テ有用ノ事ニ供セサリシカ其後一千三百四十年英國ノ比ニ及テ日耳曼國ノ僧スワルズト云ヘル者之ヲ發見シ初テ實用ニ施セリ故ニ此時ヲ以テ火藥發明ノ始トス大砲之始 一千三百四十年ノ頃始テ大砲ヲ製造ス其後七十餘年ヲ經テ一千四百十四年^一永^ニ至リ佛蘭西國ニ於テ線

條砲ヲ創造ス又爆丸^{ホカ}加農^{カノ}ト云ヘル砲ハ同國ノ砲術家百機^{ハキ}山斯^{サン}ト云ヘル人ノ發明ナリ
兵卒之始 一千三百年代ニ始テ火器^{トビダウク}ヲ發明シテ之ヲ戰爭ニ用フルニ至レリ然レトモ尚各國ノ貴族輩^{キウキ}曰^{トモ}諫^{ケン}ノ弊習ヲ守リ徒ニ此技ヲ蔑視^{カクシスル}シテ敢テ精^{セイ}勵^{レイ}研究^{ケンキウ}スルヲ要セス是ニ於テ別ニ一法ヲ設ケ給^{キツ}金

ヲ出シテ人ヲ雇ヒ砲術ヲ學ハシメテ以テ戰ヒミ用ヒタリ之ヲ兵卒ノ始トス

油画之始 一千三百五十二年 中北義國

日納德ノ画工我般伊幾ト云ヘル者山水

遠景ニ巧ナルヲ以テ其名ヲ顯セシカ始

テ油画ヲ描ク事ヲ工夫セリ

出版之始 哥索得ト云ヘル人偶然ノ事ヨ

リ此法ヲ發明シテ活字ヲ製シ尚モ此術

ヲ進ント世人ニ秘セシヲ怨チ其僕ノ為

ニ發覺セラレタリト云然レトモ真ノ發

明ハ一千四百四十一年嘉吉蠻時ノ額丁

山ト紐約ノ法斯篤トノ二人ニアリト云

常備兵之始 一千四百五十年 空德佛蘭西

王查理第七世英國ト戰テ之ニ勝チ後患

ヲ畏レテ國中ノ貴族等ニ令シ無事平穩

ノ時ト雖モ常ニ警備ノ兵ヲ設ケシム之

ヲ常備兵ノ始トス

亞國アフリカ之發見 一千四百九十二年明成祖西班牙

牙ノ船將哥倫布コロンブスト云ヘル者新世界ヲ查

出セシト志シ海ニ航シ針路ヲ南ニ取テ

加拿利カナリア嶋ニ至リ夫ヨリ又西ニ向テ進行

シケルカ數日ヲ經ルト雖モ唯渺茫ハッキリタル

蒼海サカサカノミミシテ更ニ一點ノ目ニ觸ル

モノモ絶ヘテ魚リケレハ水夫ノ者トモ

大ニ望ヲ失シ此上ハ糧食ノ盡サル中ニ

直チニ船ヲ假サシト船中頻リニ騷動セ

リ此時哥倫布偶海面ニ浮萍ノ漂ヒ來ル

ヲ見テ忽チ新世界ノ己ニ近キミアルヲ

知リケレハ水夫ノ者トモヲ諫宥カシイウ激湧シ

テ尚モ西方ニ船ヲ駛ケルニ果シテ一ノ

嶋嶼トウヲ看出セリ即バ、ミヤ諸嶋ノ一ナ

リ是ヨリシテ追々其他ノ諸嶋ヲ發見シ

テ遂ニ本國ニ航シ第三回ノ航海ニ於
 テ始テ此新世界ヲ檢出セリ
 煙草之始 一千四百九十六年明 聖德民
 高ニ於テ煙草ヲ發見セリ是煙草ノ始ナ
 リ一説ニ西班牙國ノ人印度ノ約迦坦ト
 云ヘル所ヨリ此草ヲ携ヘタリトモ又印
 度ノ莫若島ヨリ齎シタリトモ云ヘリ
 耶穌新教之始 耶穌教世ニ弘マリテヨリ

八百餘年ヲ經分レテ東部西部ト成リ後
 一千五百年ノ初ニ於テ西部又分レテ舊
 新ノ二教ト成ル之ヲ耶穌新教ノ始トス
 地畧之始 一千五百年永正 葡萄牙ノ人
 華士哥德加馬ト云ヘル者亞非利加洲ノ
 南海ヲ經テ馬達加斯カニ至リ印度海ヲ
 過テ亞細亞洲ヲ過シ南海ニ出テ諸國ノ
 形勢及ヒ海路ノ曲折ヲ詳ニシ地畧ヲ編

輯シテ國王ニ獻ス之ヲ地畧ノ始トス
 地球一周之始 一千五百十九年 正 葡萄牙國ノ墨瓦蘭ト云ヘル人其國ヨリ航ヲ
 發シテ南亞米利加ノ巴太温ノ海峽ニ至
 リ夫ヨリ針路ヲ東ニ取り太平洋ニ出テ
 亞細亞ノ南海ニ進ミケルカ終ニ波上ニ
 於テ其命ヲ殞セリ然ルニ幸ニシテ其船
 隊中ノ一艘亞非利加洲ノ南峽喜望峯ヲ

經テ一千五百二十三年 大 永 本 國 三 飯 帆
 セリ其海路ノ行經凡一千百二十四日ノ
 間ナリ之ヲ全地球ヲ一周スルノ始トス
 針之創造 一千五百四十五年 天 文 印度ノ
 土人英吉利國ニ於テ始テ針ヲ製造ス之
 ヲ針ノ始トス
 莫大小之始 一千五百四十七年 天 文 佛 蘭
 西王顯理第二世始テ絹ヲ以テ莫大小ヲ

製ス即莫大小ノ始ナリ又編アミタル莫大小ノ製造ハ一千五百五十年西班牙國ニ於テノ工夫ナリト云

織襪タビ機ヲオムルニガク之始

一千五百年代ノ末英國加カ爾ル

華頌カワトクノ牧師キョウシ之法ホウ教キョウ

維廉ウヰリム李リト云ヘル者アリ嘗テ村中ノ少女ニ深ク戀レニ着チヤクシ其家ニ

到リシニ少女頻リ襪タビヲ織オリテ李ヲ待

遇スルト甚簡慢シナリケレハ李忽ツチ憎ソウ怨ウラミ

ヲ發シ新ニ其機キ械ケツヲ造リ出シテ彼ノ利

ヲ失ハシメント欲シ是ヨリ三年ノ間織

襪機ヲ作ルノト心思ヲ勞シテ遂ニ其

功ヲ成セリ之ヲ織襪機ノ始トス

練テカ兵レシ之始 一千五百年九年明シ代ノ末和蘭合

衆政治ノ大統領トウリツトト云ヘル人

用イクサ兵ヲノ新法ヲ發明シテ敵軍ヲ壓アツセント

欲シ始テ練兵ノ法ヲ立テ無事平靜ノ時

ト雖モ兵卒ヲ集メテ戰鬪ノ術ヲ講セシム之ヲ練兵ノ始トス

公法學之始 一千六百年慶長代和蘭國ノ

虎哥ト云ヘル者始テ此學ヲ起シ弟子ト

公法ヲ論シ曾テ之ヲ天法性法ノ二類ニ

分テリ之ヲ公法學ノ始トス

地動說之始 古昔希臘ノ理學者ニ閉他歐

刺斯ト云ヘル人アリテ地球ノ日ヲ環リ

テ行クノ說ヲ唱フ其後埃及ニ多祿某ト

云ヘル者アリテ其說ニ反シテ地球ヲ以

テ沖心ト為ス誤テ此說ヲ綜トスルヲ幾

千百年是ニ普魯士國ニ歌白尼ト云ヘル

者アリ新法ヲ測リ得テ閉氏ノ說ト吻合

ス惜ラクハ其法生前ニ行ハレサリシカ

一千六百六十年慶長ニ至リテ以太利ノ理

學者伽離略ト云ヘル人地動ノ說ヲ建テ

世界轉動ノ理ヲ發明セシヨリ千古ノ疑

惑始テ茲ニ氷釋セリ

搖錘之始 伽離略畢撒ノ寺院ニ在リテ一

日寺院ノ入屋檐ニ懸ケタル燈ニ油ヲ添

ヘ其燈棄置ケルニ其燈搖動シテ已ニサ

リケレハ伽離略仔細ニ之ヲ注視シ是ニ

由テ遂ニ搖擺器ヲ用ヒテ時ノ遲速ヲ測

ラント是ヨリ後五十年ノ苦學ヲ經テ此

器始テ充分ニ成就ス之ヲ搖錘創造トス

風雨鏡之始 伽離略ノ弟子ニトルリセリ

ウスト云ヘル人アリ始テ風雨鏡ヲ製シ

テ大氣ノ性ヲ發明ス故ニ人之ヲ呼テト

ルリセリウス管ト云即風雨鏡ノ始ナリ

千里鏡之始 伽離略偶和蘭ノ眼鏡ヲ造ル

ノ工入隅遠ノ物ヲシテ近ク見セシムル

ノ器ヲ新造セリト聞キ是ニ倣ヒテ測天

ノ器ヲ作ラント欲シ是ヨリ此理ヲ考察
シテ遂ニ一千六百九年慶長十四大千里鏡
ヲ製造セリ即千里鏡ノ始ナリ

對數表之發明 一千六百十四年慶長十九迷尔
基敷キトシノ那比尔ナヒルト云ヘル人始テ加減ヲ以
テ乘除ニ代ルノ算法ヲ發明ス之ヲ對數
表發明ノ始トス

血液ケツ運行之發明 一千六百十六年元和和英

國ノ醫師イハシ厚倍コウバイト云ヘル者血液運行ノ理
ヲ考キ覈カクシ一書ヲ著スニ八年ノ星霜ヲ費
セリ而テ其說セツトモ確コト當トナリト雖モ未夕之ヲ
信スル者無リシカニ十五年ノ後ニ及テ
厚倍ノ說遂ニクニケニヤ闢國ノ定論トナレリ之ヲ
血液運行ノ理ヲ發明スルノ始トス

西洋神醫

寒暑カダンカキ鍼之始 一千六百二十年元和和蘭ノ
德勒伯ドレハト云ヘル人寒暑ノ加減ヲ測ラシ

トテ始テ寒暑鏡ヲ製造セリ之ヲ寒暑鏡
ノ始トス其後以太利國ニ於テ此器ヲ
斷スト雖モ氷點沸湯點ヲ定メサルカ故
ニ未タ其精ヲ得ス是ニ於テ佛蘭西ノ列
氏ト以太利ノ華氏ノ二人之ヲ改造セシ
ハ一千七百二十年享保ノ事ナリ
排氣鐘之始 日耳曼國馬略的堡ノ邑長ヲ
テクユリツケト云ヘル人嘗テ氣質ノ

輕重ヲ秤リ氣性ノ縮舒ヲ試ミニト欲シ
一千六百五十四年承応ニ始テ排氣鐘ヲ
製造ス

新聞紙之始 一千七百年元禄三代ノ始亞米
利加ノ摩士敦ニ於テ始テ新聞紙ヲ開板ス
引力之發明 一千六百年慶長代ノ末ニ英
國ニ紐敦ト云ヘル大家アリ多年引力ノ
事ヲ考究シ勉強勞苦ヲ積テ其確證ヲ求

ント欲セシニ偶樹園ニ於テ果實ノ足_キ切_リ
ニ墜ルヲ見テ忽チ地球ニ別効アルノ道
理ヲ悟レリ之ヲ引カ發明ノ始トス

牛痘之始

一千七百年代ノ央ニ英國ノ医

家ニ日納爾ト云ヘル人アリ少年ノ時外

科医ノ徒弟トナレリ或時一_ト嶺ノ村女来

リテ_シ疹_シ瘰_シヲ求メシニ_シ痘_シ瘡_シナル由_シヲ告ケ

レハ村女答ヘテ_シ妾嘗テ牛_シ瘡_シヲ受タレハ

今此疾ヲ患フルノ理ナシト云ヘリ日納
爾之ヲ聞テ心中ニ忽チ以_{オモヘラ}為ク之ヲ用ヒ
ハ必痘瘡ノ患ヲ免カルヘシト是ニ於テ
即此事ヲ究察セント欲シ其朋友ニ語リ
シニ却テ大ニ_ヒ辯_ヒ笑_ヒヲ受タリシカ其後二
十年ノ_シ經_シ験_シヲ積テ遂ニ牛痘ヲ種テ痘瘡
ヲ防クノ良法ヲ發明セリ

印花機之始

一千七百五十年_三寬延前後ニ

西洋抽_シ摺_シ

英國ノ伯拉訖畔ニ比耳ト云ヘル農夫アリ此時世上ニ洋布ニ花罽ヲ印スルノ術未タ聞ケサリケレハ新ニ此機ヲ製造セシト欲シ種々工夫ヲ廻シケルカ一日錫ヲ交ヘ製スル罽ノ上ニ燭形ヲ顯シ之ヲ押サハ反對ノ形狀ヲ印出スヘシト思ヒ之ニ染料ヲ施シテ其上ニ白布ヲ被セカレントテリレグマシーン布ヲ研キ平滑

筒形ノ上ニ加ヘシカハ果シテ發明ニ其圖ヲ印出シタリ是其印花機器ヲ造出スルノ始ナリ

雷器之始 一千七百五十二年 亞米利加ノ窮理學者弗蘭克林ト云ヘル人々造ノ電氣ト空中ノ雷電ト元来一物ナルヲ發明セシカ其經驗ノ為ニ二枝ノ木條ト絹ノ手巾トヲ以テ紙鳶ヲ造リ之ヲ

放チテ雲中ノ電氣ヲ導キ是レ電氣象ヲ
發スルヲ試ミテ以テ電ヲ導クノ法ヲ得
始テ避雷器ヲ造出セリ

紡棉機之始

一千七百年元祿代ノ初保爾

ト云ヘル者廻轉木ヲ用ヒテ糸ヲ紡スル
事ヲ發明シタリシカ此機器未タ實用ニ
供スルニ足ラス海士ト云ヘル人又此器
ヲ造リシカ空シク成功モ無リシニ一千

七百六十九年明和阿克來ト云ヘル人此
機器ヲ成就シテ遂ニ官許ヲ得始テ諸
國ニ於テ棉磨ヲ造リ馬力ヲ以テ之ヲ曳
カセタリト云即紡棉機ノ始ナリ

蒸氣機之始

紀元前百二十年開化三ノ比

ニ亞力山德里亞ニ希洛ト云ヘル人アリ
テ始テ蒸氣ノ力ヲ經驗スルノ器具ヲ製
セシカ徒ニ空理ヲ論スル而已ノ事ナリ

其後遂ニ英國ノ人瓦ット云ヘル者半國
民ノ作リシ蒸氣機關ノ様子ノ修復ヲ托
セラレ是ニ因テ前人已ニ發明セル所以
ノ理ヲ講求シテ機器建造ノ法ヲ研究シ
遂ニ一千七百六十九年明和ヨリ一千七
百八十五年ニ至ルマテノ間ニ始テ蒸氣
機関ヲ大成セリ
酸素之發明 一千七百七十四年安永アリ

ストリート云ヘル人始テ酸素ヲ發明ス
散兵之始 一千七百七十六年安永合衆國
獨立ノ師ニ其戦争ノ地山林谷ノ甚多
キカ故ニ亞米利加人初テ散兵ヲ用ヒテ
屢英吉利人ヲ窮メタリ之ヲ散兵ノ始トス
天王星之創見 一千七百八十一年ノ頃英
國軍隊ノ樂江ニ維廉黒爾ト云ヘル人
アリ多年天象ヲ觀察シテ種々工夫ヲ積

ケルカ遂ニ於^ウ呢拿士^{ニユス}ト云ヘル新行星ヲ
發見シ其行道ト轉動ノ遲速トヲ推歩ン
テ學士集會院ニ送レリ之ヲ天王星ノ創
見トス

水素之發明 一千五百年代ニ瑞西國ノハ
ラセルシユスト云ヘル人始テ水素ヲ發
見ス然レトモ其性質ヲ精ク講究セシハ
一千七百八十一年^ニ尼斯ノカダンヂース

ト云ヘル人ヲ以テ始トス

輕氣毬之始 一千七百八十二年^ニ天明佛蘭

西ニ於テ氣毬ヲ製造シテ^ホ大氣中ニ放ツ

之ヲ輕氣毬ノ始トス其後一千八百三十

六年^{天保}英國ニ於テ之ヲ製シ是ニ乘車ヲ

繫^ツキ中ニ三人ヲ容レテ倫敦ヨリ登リ大

氣中ヲ走ル^ト十八時ニシテ拿騷ノ外^出

堡ノ地ニ降リシト云

火輪車之始 一千七百八十四年天明 維廉
迷爾獨克ト云ヘル人始テ火輪車ヲ製造
セシカ徒ニ玩具ニシテ更ニ其益ナク後
二十年ヲ經テ一千八百二年享和ニ至テ
英國ノ人托列ト云ヘル者機關ノ工
夫ヲ大成シタレトモ尚之ヲ以テ實用ニ
施サス其後一千八百十五年文化ニ其子
士提反孫ト云ヘル者遇然ノ事ヨリ蒸氣

ノカヲ劇烈ニスルノ術ヲ得テ始テ此器
ノ成功ヲ得タリ
禮拜日學院之始 一千七百八十四年天明
英吉利ノヨークシヤイルト云ヘル地ニ
始テ禮拜日學院ヲ建設セリ
瓦斯燈之始 一千七百九十八年寛政 英吉
利ニ於テ石炭ヲ蒸燒ニシテ始テ瓦斯燈
ヲ用フルヲ工夫セリ

用樂兵之始 樂器ヲ鳴ラシテ軍隊ノ勳作
進退ヲ節スルノ法ハ一千七百年代ノ末
普魯士王弗勒特力第二世ノ時ヲ以テ始
トス

寫真鏡之創製 一千八百年代ノ初佛
蘭西ノ達求爾ト云ヘル人物體ノ光線球
鏡ノ為ニ屈折シテ一點ニ聚合シテ其物影
ヲ顯ハスヲ見此理ヲ推シテ始テ寫真鏡

ヲ製造セリ

四小行星之創見

諸游星太陽ヲ距ルノ度

殆ヲ測リシニ火星ト木星トノ間ニ尚游
星アルヘキヲ察シ推考スルヲ久シカ
リシカ一千八百年代ニ必亞齊ト云ヘル
人巴勒摩シ都府ニ於テ一游星ノ其處
ニアル者ヲ創見ス因テ其發明者ノ名ヲ
取リテ必亞齊星ト名ケ或ハ噁厘士ト云

同一千八百二年ハ爾定ト云ヘル人若
擲ヲ創見シ阿爾白士ト云ヘル人俾拉士
ヲ創見ス同一千八百七年ハ阿氏又
唯斯多ヲ創見ス是等ヲ以テ小行星ヲ發
見スルノ始トス

火輪船之始 一千七百八十年安永ノ頃ヨ
リ工夫ヲ積ミケレトモ屢失錯シテ成ラ
サリシカ一千八百七年合衆國紐約ノ黒

敷ト云ヘル者百二十馬力ノ火輪船ヲ造
リテ始テ成功シ之ヲ試ミシニ三十二時
ノ間ニ一百二十里ヲ走レリ之ヲ火輪船
ノ始トス

經濟學之始 古昔希臘ノ世ニ己ニ普拉ト
ト云ヘル人及ヒ其他ノ碩學ノ輩此學ノ
端ヲ發クト雖モ分テ之ヲ一學科トナセ
シハ一千八百年十寬二代蘇格蘭ノ亞當斯

迷ヲ以テ始トス

鑛道之始 一千八百二十五年文政英國ノ

人若爾日士提及孫ノ工夫ニテ士篤敦ヨ

リ達爾林登ノ間ニ鑛道ヲ造リテ陸路ノ

用ヲ便ニス之ヲ鑛道ノ始トス

地道之始 伯路涅爾ト云ヘル人嘗テ一小

蟲ノ船ヲ蠹蝕シ船材中ニ百方鑽透シ拱

廊ノ如キ路ヲ成就シ然ル後漆ノ如キモ

ノヲ以テ上下四方ヲ塗リテ其中ニ住ス
ルヲ觀其式様ニ倣ヒテ遂ニ一千八百二
十五年ニダニムス河底ノ地道ヲ造リ其功
ヲ成就セリ

電信機之始 一千七百四年安永佛蘭西ノ

勸薩日ト云ヘル人始テ此機器ヲ製造ス

爾後電氣ノ學次第ニ関ケ隨テ電信機ヲ

モ改新シタレトモ之ヲ實用ニ施サス一

千八百三十七年八月保亞米利加ノ人模爾
 五年ノ試験ニ由テ大ニ之ヲ發明シ實地
 ニ試ミニントスレトモ貧ニシテ其資ニ乏
 シケレハ合衆國ノ政府ニ乞ヒ若干ノ金
 ヲ得テ一千八百四十四年元弘化華盛頓府
 ヲリ霸地摩府迄ノ間ニ線ヲ通シテ兩地
 ノ音信ヲ報シタリ之ヲ電信機ノ始トス
 鏡懸搗之始 一千八百年代ノ央英吉利ノ

土維德川ノ近傍ニ伯拉温ト云ヘル者ア
 リシカ嘗テ多錢ヲ費サスシテ搗ヲ架ス
 ヘキノ工夫ヲ求メケルニ一日颯ニ庭中
 ヲ歩シテ遇小サキ蜘蛛ノ行路ニ當リテ
 斜ニ織絲ヲ懸ケタルヲ見テ偶然解悟シ
 此ノ如キ方法ニ擬シテ鏡繩或ハ鏡鎖ヲ
 以テ之ヲ作ラハ果シテ可ナラント思ヒ
 是ヨリシテ遂ニ鏡懸搗ヲ製造セリ

西洋今昔袖鑿畢

明治五年冬

小石川大門町

雁金屋清吉發

